

令和3年度第2回 横浜市大倉山記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和3年8月11日（火） 13時30分から15時00分まで

2 場 所 横浜市役所 18階会議室なみき 16

3 出席者 高橋 義仁委員長、河瀬 宏則委員、鈴木 やよい委員

4 傍聴者 なし

5 議事内容

議 題	<p>1 応募団体面接審査 (1) 提案者プレゼンテーション (2) 提案者に対するヒアリング</p> <p>2 本審査 (1) 応募団体欠格事項等の確認について (2) 審議及び採点</p>
議事・ 委員意見等	<p>1 開会 (1) 定足数の確認 委員数4名のうち3名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>(2) 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市大倉山公園の集会施設（大倉山記念館）指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「応募団体面接審査」は公開、「本審査」は非公開とした。</p> <p>2 応募団体面接審査 日比谷花壇・西田装美共同事業体による提案書のプレゼンテーションの後、委員による質疑を行った。</p> <p> <主な質疑応答> (以下「・」: 委員、「→」: 提案者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様式12「基本方針」のなかで、「公的施設におけるコンシェルジュ機能」を發揮するという記載があったが、現在及び今後計画している取組を具体的に教えてほしい。 →基本的には職員が貸室利用者の案内や受付を行っている。その他、館内に巡回する職員が随時来館者への対応を行っている。イベント開催中には案内係を配置し、イベント紹介を行うなど来館者に丁寧に対応を行っている。 ・様式21について利用率の低い部屋があるとのことだが、どのような室場か。 →該当する室場は収容人数が15名程度の小さな部屋及び、外光のあまり入らない室場である。利用率を上げるための取組として、料金割引やリモート会議での利用等をターゲットとして、短時間での貸出料金設定等を検討している。 ・様式16「使命1」のなかでアートマップや地域アーティストをリスト化する取組は、現在も行っている事業か。 →これから取り組む予定である。施設利用者には幅広いジャンルの音楽活動家が存在する。それに加えて、演劇やダンスの活動家等も多い。そういった利用者を中心に登録を依頼し、リストを作成する予定である。このデータを施設で開催するイベン

トや自主事業等に活用することを想定している。アートマップについては当施設が中心となって積極的に発信したいと考えている。

・利用者は女性の割合が多いと感じているが、対応するスタッフの男女の割合はどのようなものか。
→受付スタッフの割合は女性が多い。また、イベントの企画の際に女性スタッフが参加し、女性の意見を取り入れた企画立案を行っている。

・財務状況について、コロナ禍の影響を受け最新年度にかけて有利子負債が増加している団体がある。今後、事業を進めるにあたりどのような影響があるか教えてほしい。
→当該団体は令和2年度の緊急事態宣言の発出やコロナ禍の影響を大きく受けたが、金融機関からは積極的な融資を受けている。今後のコロナ禍における影響は不透明だが、ご指摘の財務状況については一過性のものと捉えており、社会的制限が緩和されれば業績も回復するものと考えている。

・様式21 過年度の実績に対する利用率の目標設定と利用料金収入試算額について、伺いたい。2022年度額はコロナの影響を受ける前の2019年度と同等の金額となっている。コロナの影響がどの程度あると想定しているのか。また、2021年現在は回復傾向にあるのか教えてほしい。
→2020年度は全館休館期間の収入減の影響が大きかった。2021年度は利用時間の制限にとどまっていることや、撮影の受け入れを積極的に行っていることから利用料金収入は回復傾向にある。その状況をふまえて試算した。

・様式17「文化財の活用」について、横浜市の有形文化財を管理運営するうえで、学芸員などの専門職員配置の検討はしているか。
→団体内でもすり合わせをしている。現在、学芸員等の雇用予定はないが、アドバイザー等の外部ブレーンを活用して専門的知見を取り入れながら運営する方針である。

・平日と休日の利用料金に差をつけることは検討しているか。
→現在は、検討するに至っていない。金額の差をつけることで収入増は見込めるが、利用者数の減少が想定されるため、市と相談しながら慎重に検討していきたい。

・外国では晚餐会等の飲食利用を取り入れている文化財施設があり、それにより利用価値が上がった事例がある。軽食にとどまっている理由は何か。
→文化財であるため、施設内にキッチン等の設備を新設することが難しい。また、衛生面の管理にも懸念がある。そのため、キッチンカーの誘致や軽食の販売にとどめている。現在は土日を中心として軽食販売を行っているが、施設の集客率をふまえると、平日に行った場合に採算が取れないと考えている。
軽食ではないが、提案のなかで地域の農家による野菜販売を提案している。このようなイベントにより、施設の賑わいを創出したいと考えている。

・利用率が低い部屋を中心に空調やネット環境の整備を行い、室場の活用を諮ってはどうか。このような設備投資について検討しているか。
→検討しており、来期はWi-Fiを導入する予定である。現在はホールでの動画配信の利用に際してLANケーブルの貸出を行っており、需要が多いため、設備投資の必要性を感じている。

・他施設ではコロナ禍において利用者の減少に苦慮している事例が多いが、当該施設は影響が小さいように感じる。この理由についてどのように分析しているか。
→利用者は近隣住民が多く、芸術意識が高いことに起因していると考えられる。特にホールでのピアノの利用者が多く、発表会や教室の開催、練習等の利用がある。その他コンサートでの利用等があり、利用者の芸術に対する意識の高さを感じる。

・入場料を徴収する場合の利用料は入場料無料時の倍の料金設定だが、利用者の割合はどのようなものか。山手の洋館等では有料コンサートで多くの集客があると聞いたことがある。立地的に集客を見込める地域だと感じるが、そのような利用はあるか。
→入場料を徴収する利用は、全体利用件数の30%程度である。コロナ禍では入場者数に制限を設けているため、集客数は減少している。有料コンサートについては参考にさせていただきたい。

・施設の立地として東京からのアクセスが良い。緊急事態宣言等で越境移動の自粛が求められたが、利用者層の変化はあったか。
→特に利用者層の変化は感じておらず、貸室は近隣住民の利用が多い。ただし、撮影利用は東京からの利用が多いため、引き続き広報に力を入れていきたい。

・様式17「文化財を活用した魅力の発信」について、通常のイベント開催では文化財の魅力が伝わらないと考える。使命2のなかで具体的な提案はなかったが、例えば建築を専攻する学生に向けた学術発表を行う等、文化財としての価値や建築的資産価値を多様な利用者層に発信する取組について構想はあるか。
→オープンデーやオープンギャラリーで全館案内を開催予定である。また、併設している大倉精神文化研究所と共催イベントのなかで、記念館の歴史や大倉邦彦の生涯に触れる機会を提供しようと考えている。広報は地域の広報誌等が中心であるため、弱い部分があるかもしれない。これまでも、建築に興味がある学生が施設を訪れる事例があった。現状の提案をベースに取り組んでいきたい。

・様式18に関連して、団体のノウハウを生かした「花」に関連した取組はどのようなものか。
→フラワーアレンジメントを館内に配置したり、花の販売会等も開催する予定である。また、アレンジメント講習を開催しており、人気の高い講座となっている。

3 本審査

- (1) 応募団体について、応募団体の欠格事項のうち、市税等の滞納がないこと及び暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないことが確認された旨を事務局から報告。
- (2) 提案書類及び面接審査の内容を踏まえ、委員による意見交換、各評価項目の採点を行った。

【審査結果】

- ・提案者：日比谷花壇・西田装美共同事業体
総得点515点/660点（委員3名×持ち点220点）

なお公募要項に、指定候補者及び次点候補者となるためには、選定評価委員会の定める最低基準点（加減点項目を除く評価基準項目の合計200点満点の6割以上）を満たすことが必要である旨の記載があり、3名全ての委員の採点がこの基準を満たしていることを併せて確認した。

審査結果	<p>応募団体：日比谷花壇・西田装美共同事業体を指定候補者として横浜市長に報告する。</p> <p>なお、審査結果及び講評は、本日の意見を集約し、委員長確認のうえ報告書にまとめる。</p>
------	------------------------------------------------------------------------------------------------